

事務事業名	職員健康診断事務			担当	総務部 総務課 研修厚生係			
政策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり			電話番号	0285-83-8469		
施策名	2	組織・人材の強化			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	労働安全衛生法、同施行令施行規則、真岡市職員安全衛生管理規程				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和47 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1. 総務管理費	2. 人事管理費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	労働安全衛生法、真岡市職員安全衛生管理規程に基づき、職員の健康診断を実施し、病気の早期発見、早期治療により職員の健康を維持するとともに、職員定期健康診断及びがん検診の実施日を統一するため、企画・実施に関する事務を行うものである。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 定期健康診断とがん検診については、巡回検診のできる医療機関から見積書を徴取、実施医療機関を選定し、人間ドック受診者を除き、各検査項目の受診対象者を抽出し、同日に実施した。平成16年度から栃木県保健衛生業団に委託している。人間ドックについては、希望者が各々受診している。 25年度計画 24年度と同じ	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称							
	ア	受診者数（定期健康診断）	人	549	430	412	417	431
	イ							
	ウ	受診者数（人間ドック） 参考	人	97	211	212	218	230
エ								
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 職員、嘱託職員及び臨時職員	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称							
	ア	受診対象者数（定期健康診断）	人	569	430	432	419	431
	イ							
	ウ	受診申し込み者数（人間ドック） 参考	人	119	218	220	235	240
エ								
オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 職員の健康状況を把握する。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称							
	ア	受診率（定期健康診断）	%	96.5	100	95.3	99.5	100
	イ	要精検率	%	37.3	36.8	30.9	23.3	22.0
	ウ	精密検査受診率	%		29.4	28.6	34.5	35.0
エ								
オ	受診率（人間ドック） 参考	%	81.5	96.7	96.3	92.8	95.0	
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 職員の健康管理を促し、業務効率の向上を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称							
	ア	業務効率の向上を図った職員	%	96.5	100	95.3	99.5	100
	イ							
	ウ							
エ								
オ								

(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳						
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,120	2,905	3,136	3,166	0	
	事業費計(A)	千円	3,120	2,905	3,136	3,166	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	0
		延べ業務時間	時間	160	160	160	160	0
		人件費計(B)	千円	649	683	679	672	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,769	3,588	3,815	3,838	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	職員の健康管理を促し、業務効率の向上を図る。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	人間ドックを受診する者が増加している。 心の健康を害する職員が増加傾向にある。 平成21年度から、特定健康診査（メタボ健診）の項目が追加された。 <労働安全衛生法>
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 職員の定期健康診断である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 法律で事業主が行うことが義務付けされており、業務上必要なものである。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 職員の健康管理を図っている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 職員の健康管理が損なわれる。 労働安全衛生法に違反する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 見積を聴取した上で実施しており、削減の余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 健康診断の実施に必要な人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 法に基づき事業主の責任で行うもので、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							